

日本人大学生の初修外国語授業に対する不安感：常葉大学外国語学部 グローバルコミュニケーション学科で韓国語を学ぶ学生を対象に

谷 誠 司

Classroom Anxiety of Tokoha University students
who start to study Korean language at university

Seiji TANI

2014年11月21日受理

1. はじめに

外国語学習において不安や緊張がその習熟度に影響を与えていることは、外国語の教師であれば自らの教育経験や学習経験から直観的に納得のいくものである。先行研究においては「外国語不安 (foreign language anxiety)」(Horwitz, Horwitz, & Cope, 1986) や「言語不安 (language anxiety)」(MacIntyre & Gardner, 1994) と呼ばれ、これらの外国語学習に関わる不安や緊張は外国語の学習や習得に負の影響を与えていることを示唆するものが多い¹ (Horwitz, Horwitz, & Cope, 1986; MacIntyre & Gardner, 1994; Aida, 1994; Saito & Samimy, 1996; Saito, Horwitz, & Garza, 1999; 池田, 1997)

本稿では目標言語（韓国語）が教室外では使用されない外国語環境において、目標言語（韓国語）の授業に対する不安に関する実態調査を行い、その結果から不安感を軽減させるための授業改善に結びつく資料になることを目指す。

2. 目的

本調査の目的は、常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科で韓国語を学び始めた学生を対象に、(1)韓国語の授業に対してどのような不安感を持っているか、(2)学習期間の違いによって不安感にどのような変化があるか、(3)どのような不安を持つかによって学生をグループに分けた場合、それぞれのグループにはどのような特徴があるか、についてその実態を把握することである。

3. 方法

3.1. 協力者

常葉大学外国語学部グローバルコミュニケーション学科の専攻科目である「韓国語会話入門（1年後期）」ⁱⁱと「韓国語会話1B（2年後期）」を受講している学生が本調査に協力してくれた。協力者数は「韓国語会話入門」からは13名（男性：2名、女性：11名）、「韓国語会話1B」からは11名（全員女性）、計24名であった。韓国語の学習期間は「韓国語会話入門」の受講生で約5か月、「韓国語会話1B」の受講生で1年半程度である。

3.2. 調査実施時期

半期の授業がほぼ終わっている2014年1月に実施した。

3.3. 質問紙

元田(2005)にある日本語不安尺度のうち、教室内不安(23項目)を使用した(表1)ⁱⁱⁱ。ただし、「日本語」とある部分は「韓国語」に変えている。この23項目に対して、6件法(「全く、その通りだと思う(6点)」から「全然、そうは思わない(1点)」で回答を求めた。

表1：本調査の質問項目

-
- (1) 教室で韓国語を話すとき、ふだん緊張します。[1. 話す・不安]
 - (2) 指名されそうだとわかると、不安になります。[2. 指名・不安]
 - (3) 教室で韓国語をまちがえないか心配です。[3. 間違い・心配]
 - (4) 教室で緊張すると、ふだんは知っている韓国語が思い出せません。
[4. 緊張・思い出せない]
 - (5) 教室で声に出して韓国語を読むとき、緊張します。[5. 音読・緊張]
 - (6) 韓国語の授業の速さについていけないとき、不安になります。
[6. 授業の進度・速い・不安]
 - (7) テープやビデオの韓国語がわからないとき、不安になります。
[7. テープやビデオ・分からない・不安]
 - (8) 教室で韓国語を使って口頭発表するとき、緊張します。[8. 口頭発表・緊張]
 - (9) 私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります。
[9. 自分のレベル・他の学生より低い・不安]
 - (10) 韓国語の授業でたくさんのことを勉強しなければならないとき、あせります。
[10. 学習量・多い・不安]

- (11) 他の学生の前で韓国語をまちがえたとき、恥ずかしいです。
[11. 他の学生の前・間違い・恥ずかしい]
- (12) 先生の質問の答えがわからないとき、あせります。
[12. 先生の質問・分からない・不安]
- (13) 韓国語の授業の内容が難しくわからないとき、不安になります。
[13. 授業内容・分からない・あせる]
- (14) 先生が早口で韓国語を話すと、不安になります。[14. 先生・早口・不安]
- (15) 他の学生が、私の韓国語を下手だと思わないか心配です。
[15. 他の学生・自分を下手と思う・心配]
- (16) 韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です。
[16. 間違い・先生に叱られる・心配]
- (17) 教室の前に出て、韓国語のロールプレイをするとき、緊張します。
[17. ロールプレイ・緊張]
- (18) 教室で私には韓国語の学習能力がないのだろうか、と心配になります。
[18. 学習能力のなさ・心配]
- (19) 急に先生に質問されたとき、緊張します。[19. 質問される・緊張]
- (20) 韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります。
[20. 他の学生に笑われる・心配]
- (21) 教室で韓国語を使ってディスカッションをするとき、緊張します。
[21. ディスカッション・緊張]
- (22) 先生が私の韓国語を分からないとき、あせります。
[22. 先生・自分が言うことが分からない・あせる]
- (23) テープやビデオの韓国語の速さについていけないとき、不安になります。
[23. テープやビデオの速さ・不安]
-

4. 結果

協力者 24 名のうち 2 年生 1 名が無回答であったため、23 名を分析対象にした。23 名全体の記述統計量は表 2 にある。平均値が 4 以上だと不安度が高いと考えた場合、項目 9. [私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります]、項目 12 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります] が不安度の高い項目であった。また、平均値が 3 以下だと不安度が低いと考えた場合、項目 16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です] や項目 20 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります] が不安度の低い項目であった。

表 2：記述統計量 (全体)

	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
1. 話す・不安	23	3.57	1.24
2. 指名・不安	23	3.70	1.40
3. 間違い・心配	23	3.70	1.29
4. 緊張・思い出せない	23	3.48	1.04
5. 音読・緊張	22	3.36	1.26
6. 授業の進度・速い・不安	23	3.35	1.11
7. テープやビデオ・分からない・不安	23	3.61	0.94
8. 口頭発表・緊張	23	3.70	1.33
9. 自分のレベル・他の学生より低い・不安	23	4.00	1.45
10. 学習量・多い・不安	23	3.70	1.33
11. 他の学生の前・間違い・恥ずかしい	23	3.43	1.24
12. 先生の質問・分からない・不安	23	4.09	1.04
13. 授業内容・分からない・あせる	23	3.91	1.24
14. 先生・早口・不安	23	3.43	1.27
15. 他の学生・自分を下手と思う・心配	23	3.30	0.97
16. 間違い・先生に叱られる・心配	23	2.22	1.09
17. ロールプレイ・緊張	22	3.91	1.19
18. 学習能力のなさ・心配	23	3.35	1.34
19. 質問される・緊張	23	3.74	1.36
20. 他の学生に笑われる・心配	23	2.43	1.04
21. ディスカッション・緊張	23	3.57	1.50
22. 先生・自分が言うことが分からない・あせる	23	3.48	1.12
23. テープやビデオの速さ・不安	23	3.83	1.19

* 平均値が 4 に近い場合は太字に、3 以下の場合は網掛けをした。

学年別に違いがあるかを見るために 1 年生と 2 年生に分けて記述統計量を出した (表 3・表 4)。1 年生の場合、不安度が高い項目は項目 2 [指名されそうだとわかると、不安になります]、項目 12 [先生の質問の答えがわからないとき、あせます]、項目 13 [韓国語の授業の内容が難しくわからないとき、不安になります]、であり、不安度の低い項目は項目 16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です] と項目 20 [韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります] であった。2 年生の場合、不安度が高い項目は項目 9 [私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります]、項目

12 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります] であり、不安度の低い項目は項目 15 [他の学生が、私の韓国語を下手だと思わないか心配です]、項目 16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です]、項目 20 [韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります] であった。

表 3：記述統計量（1 年生）

	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
1. 話す・不安	13	3.69	1.18
2. 指名・不安	13	4.00	1.47
3. 間違い・心配	13	3.62	1.26
4. 緊張・思い出せない	13	3.54	0.97
5. 音読・緊張	12	3.42	1.08
6. 授業の進度・速い・不安	13	3.46	0.97
7. テープやビデオ・分からない・不安	13	3.46	0.78
8. 口頭発表・緊張	13	3.77	1.30
9. 自分のレベル・他の学生より低い・不安	13	3.92	1.19
10. 学習量・多い・不安	13	3.62	1.26
11. 他の学生の前・間違い・恥ずかしい	13	3.23	1.09
12. 先生の質問・分からない・不安	13	4.08	0.86
13. 授業内容・分からない・あせる	13	4.00	0.82
14. 先生・早口・不安	13	3.31	1.18
15. 他の学生・自分を下手と思う・心配	13	2.92	1.12
16. 間違い・先生に叱られる・心配	13	2.54	1.13
17. ロールプレイ・緊張	12	3.92	1.16
18. 学習能力のなさ・心配	13	3.31	1.11
19. 質問される・緊張	13	3.92	1.04
20. 他の学生に笑われる・心配	13	2.77	1.01
21. ディスカッション・緊張	13	3.69	1.18
22. 先生・自分が言うことが分からない・あせる	13	3.38	1.04
23. テープやビデオの速さ・不安	13	3.92	1.26

* 平均値が 4 に近い場合は太字に、3 以下の場合は網掛けをした。

表 4：記述統計量（2年生）

	<i>n</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
1. 話す・不安	10	3.40	1.35
2. 指名・不安	10	3.30	1.25
3. 間違い・心配	10	3.80	1.40
4. 緊張・思い出せない	10	3.40	1.17
5. 音読・緊張	10	3.30	1.49
6. 授業の進度・速い・不安	10	3.20	1.32
7. テープやビデオ・分からない・不安	10	3.80	1.14
8. 口頭発表・緊張	10	3.60	1.43
9. 自分のレベル・他の学生より低い・不安	10	4.10	1.79
10. 学習量・多い・不安	10	3.80	1.48
11. 他の学生の前・間違い・恥ずかしい	10	3.70	1.42
12. 先生の質問・分からない・不安	10	4.10	1.29
13. 授業内容・分からない・あせる	10	3.80	1.69
14. 先生・早口・不安	10	3.60	1.43
15. 他の学生・自分を下手と思う・心配	10	3.80	0.42
16. 間違い・先生に叱られる・心配	10	1.80	0.92
17. ロールプレイ・緊張	10	3.90	1.29
18. 学習能力のなさ・心配	10	3.40	1.65
19. 質問される・緊張	10	3.50	1.72
20. 他の学生に笑われる・心配	10	2.00	0.94
21. ディスカッション・緊張	10	3.40	1.90
22. 先生・自分が言うことが分からない・あせる	10	3.60	1.26
23. テープやビデオの速さ・不安	10	3.70	1.16

* 平均値が 4 に近い場合は太字に、3 以下の場合には網掛けをした。

次に 23 名のうち欠損値のある 2 名を除いた 21 名を対象に調査票の回答データからグループ分けをし、それぞれのグループにどのような特徴があるのかを知るためにクラスター分析を行った。分析は平方ユークリッド距離、ワード法を使った。その結果、図 1 のような結果が得られ、4 つのクラスターに分けることが適切であると判断した。

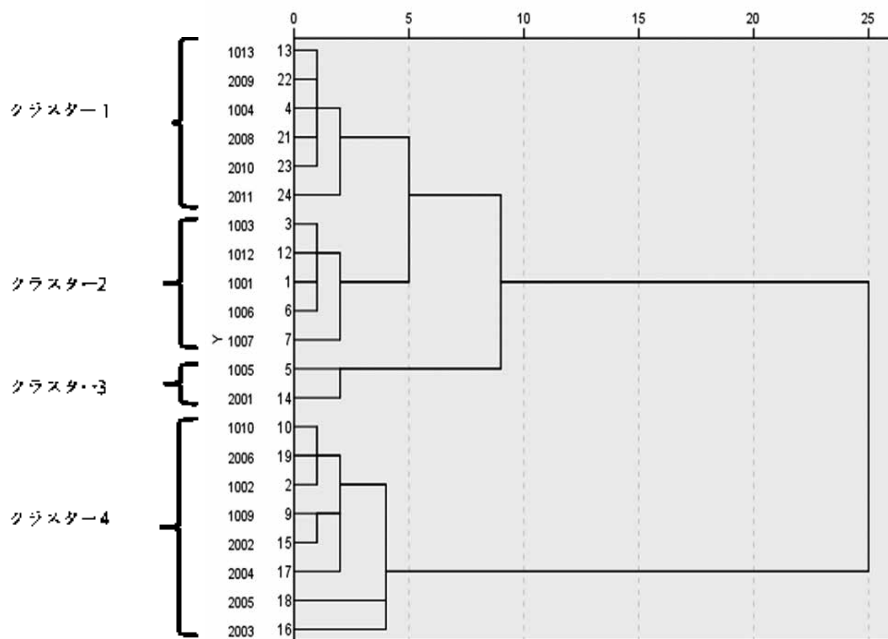


図1：クラスター分析によるデンドログラム（ウォード法）

クラスター1 (n=6)、クラスター2 (n= 5)、クラスター3 (n= 2)、クラスター4 (n= 8) ごとに調査票の各項目の平均値をまとめた（図2）。

クラスター1はほとんどの項目の平均点が4から5の間にあり、不安度が高いグループである。特に項目9「私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります」は他の項目に比べ高い。一方、項目1「教室で韓国語を話すとき、ふだん緊張します」、項目4「教室で緊張すると、ふだんは知っている韓国語が思い出せません」、項目15「他の学生が、私の韓国語を下手だと思わないか心配です」、項目16「韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です」、項目20「韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります」、は低くなっている。

クラスター2はほとんどの項目の平均点が3から4の間で全体的に不安度が中間程度で全体の平均値とほぼ同じような動きをしている。詳細にみると、項目9「私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります」、項目22「先生が私の韓国語を分からないとき、あせります」は4以上で高くなっている。一方、項目7「テープやビデオの韓国語がわからないとき、不安になります」、項目15「他の学生が、私の韓国語を下手だと思わないか心配です」、項目16「韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です」、項目20「韓

韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります]、は3以下で低くなっている。

クラスター3はすべての項目で最も不安度が高い。しかし、項目6 [韓国語の授業の速さについていけないとき、不安になります]、項目16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です]、項目20 [韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります] が低くなっている。

クラスター4はほとんどの項目の平均点が2から3の間で全体的に不安度が最も低いグループである。しかし、項目7 [テープやビデオの韓国語がわからないとき、不安になります]、項目12 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります]、項目17 [教室の前に出て、韓国語のロールプレイをするとき、緊張します] は平均点が3以上で高くなっている。一方、項目16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です] や項目20 [韓国語を話すとき、他の学生に笑われないか心配になります] は平均点が2以下で低くなっている。

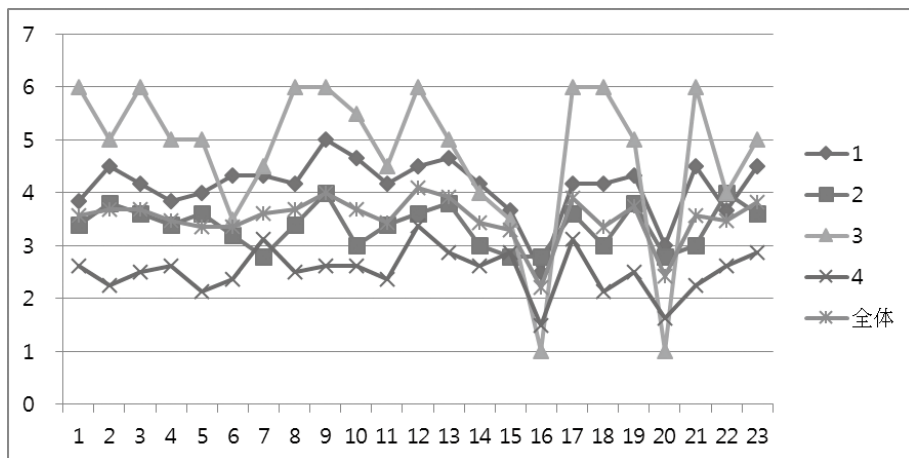


図2：クラスター別の項目平均点

5. 考察

全体として不安感が高い項目は項目9 [私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります] と項目12 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります] であることが明らかになった。一方、項目16 [韓国語をまちがえたとき、先生にしかられないか心配です] や項目20 [先生の質問の答えがわからないとき、あせります] は不安度が低く、現状においてこのような点において学生に不安感を与えていないことが分かった。

学習期間別で不安感に違いが出る項目を見てみると、1年生にとってより不安

度が高い項目は項目 2 [指名されそうだとわかると、不安になります]、項目 19 [急に先生に質問されたとき、緊張します]、項目 23 [テープやビデオの韓国語の速さについていけないとき、不安になります] であった。このことから、1 年生に対しては指名や質問をする際には不安を軽減させる工夫が必要であると言える。2 年生にとってより不安度の高い項目は項目 15 [他の学生が、私の韓国語を下手だと思わないか心配です] (2 年平均点：3.80。1 年平均点：2.92) であった。項目 9 [私の韓国語のレベルは、他の学生よりも低いのだろうか、心配になります] も 2 年平均点が 4.10 であることから、2 年生に対しては韓国語に関して他の学生と比較をするようなことは避けるべきであると考えられる。

クラスター分析に関しては、全体的な不安度の高低でグループ分けがされたが、クラスター内で相対的に高かったり低かったりする項目の解釈にまでは至らなかったもので、今後の課題としたい。

参考文献

- Aida, Y. (1994) Examination of Horwitz, Horwitz and Cope's construct of foreign language anxiety: The case of students of Japanese. *Modern Language Journal*, 78(2), pp. 155- 168.
- Horwitz, E. K., Horwitz, M. B., & Cope, J. (1986) Foreign language classroom anxiety. *Modern Language Journal*, 70, pp. 125- 132.
- MacIntyre, P. D., & Gardner, R. C. (1994) The subtle effects of language anxiety on cognitive processing in the second language. *Language Learning*, 44, pp.283- 305.
- Saito, Y. & Samimy, K (1996) Foreign language anxiety and language performance: A study of learner anxiety in beginning, intermediate, and advanced-level college students of Japanese. *Foreign Language Annals*, 9(2), pp.239-251.
- Saito, Y., Horwitz, E. K., & Garza, T. J. (1999) Foreign language reading anxiety. *Modern Language Journal*, 83, pp. 202- 218.
- 池田伸子 (1997) 「外国語学習不安と成人学習者の日本語習得」 『留学生教育』 2, pp. 121- 130.
- 元田静 (2005) 『第二言語不安の理論と実態』 溪水社

-
- ⁱ 一方では Brown (2000) のように不安が外国語学習を促進する面があることを主張する研究者もいる。
- ⁱⁱ 「韓国語会話入門」は2つのクラスに分けられているため、今回の調査に協力してくれた学生は対象になったのは本稿執筆者が担当したクラスを受講した学生だけである。
- ⁱⁱⁱ アメリカやカナダで外国語不安を測定する尺度が開発されているが、近藤・楊 (2003) が指摘するように、文化的共有性の問題や多様な学習形態に未対応である点、さらに妥当性の問題がある。また、近藤・楊 (2003) が開発した英語授業不安尺度は、英語以外の外国語には合わない項目 (例: ジェスチャーや大きな表現をするのは恥ずかしい) などがあるため、初修学習者や韓国語の特性に合った元田 (2005) の教室内不安 (23 項目) を使用した。